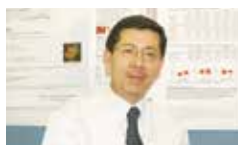




## ■ 北海道情報大学 健康情報科学研究センター ■

### 「医と食の融合」による 次世代高機能食品の開発に関する研究

食品の健康機能については、機能性の“科学的エビデンス”を示すための様々な評価系の開発、研究が行われていますが、その最終段階にはヒト介入試験による機能性の検証が求められています。北海道情報大学内にある健康情報科学研究センターでは、機能性食品のヒトでの臨床試験を効率的に行うシステムが稼働しています。このシステムは“江別モデル”と呼ばれており、北海道や江別市等の地方自治体の支援のもと、江別市内の大学・病院・公的研究機関が連携し、被験者としての地域住民ボランティア(平成26年1月現在で約3000名)の協力を得ながら、北海道内外からのニーズに応えたヒト介入試験を行っています。



#### 研究代表者

北海道情報大学 医療情報学部 教授

西平 順 Jun Nishihira

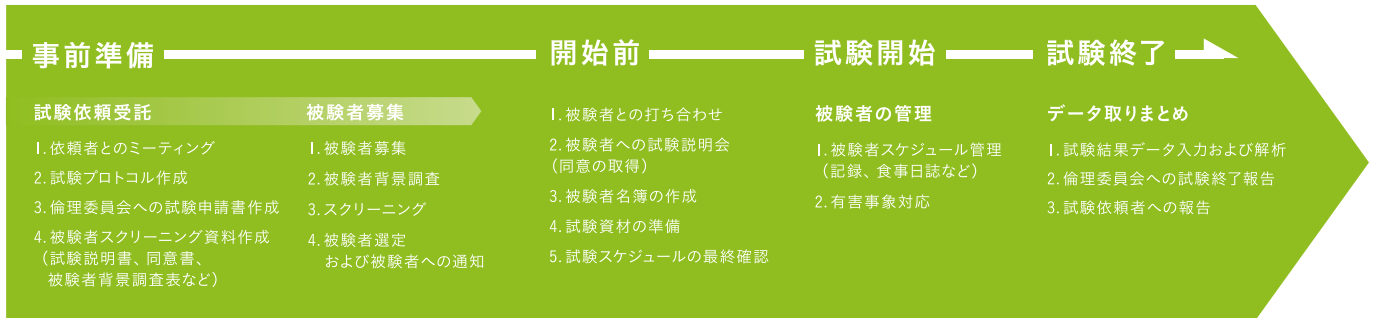
#### 問い合わせ

北海道情報大学 健康情報科学研究センター

江別市西野幌59番2 北海道情報大学内

<http://www01.do-johodai.ac.jp/shoku/index.html>

## 臨床試験開始から終了までの流れ



## “江別モデル” 3つのキーワード

### 北海道産食品の付加価値を高める

北海道産食品の優れた機能成分を検証し、付加価値の高い機能性食品開発を支援します。

### オーダーメイド臨床試験

予算に応じた小規模試験も実施可能。入念な打ち合わせを行い、測定したい項目にターゲットを絞り検査を行うことで、低コスト化を図ります。

### 機能分析から臨床試験までをワンストップで実施

食品の機能分析から臨床試験まで行う一貫体制。スピーディかつ効率的な試験を実現しています。

## 主な検査項目



## ヒト介入試験実績例

### 試験した素材例

- オリゴ糖 ● そば ● 長ネギ ● 大豆
- 米ぬか発酵素材 ● チコリー茶
- 乳酸菌入り大豆粉末 ● 北海道米 (GABA 富化米)

### 実施件数 (被験者 20 名～300 名)

- 平成 21～23 年 18 件
- 平成 24 年 4 件
- 平成 25 年 8 件